

第2回 追手風杯少年相撲大会！ ～祝 南鉄全線開通記念大会～

7月15日の南阿蘇鉄道全線復旧を記念し、国技「相撲」を通じて沿線地域の活性化と高森町への交流人口拡大を目的とした第2回追手風杯少年相撲大会が10月1日、高森中学校体育館で開催され、九州各県から参加し11団体約100名の小学生が熱戦を繰り広げました。

今年も追手風部屋所属の関脇・大栄翔関が訪問され、「震災からここまで復旧したことは凄いことだと思います。実際に駅に行きましたがマンガ家さんの絵やフランキー像に感動しました。高森町のみなさん、今年も高森町に来ることが出来てうれしいです。九州場所も頑張りますので応援よろしくお願いします」と話しました。また大栄翔関は、全線復旧した南阿蘇鉄道に乗り、午後からは高森町役場で行われたサイン会に参加され、記念撮影など気軽に応じてくださいました。多くの方の記憶に残る1日になったのではないのでしょうか。

草村町長は「高森町として、町の子どもたちと、この町に集まって参加してくれた子どもたちとの交流、それと同時に国技である相撲を応援し、横のつながりを増やしていきたいと思っています」と話しました。



見なっせ こぎゃんががあつたよ！ 聞きなっせ たかもりタウン TOPICS トピックス

秋の交通安全運動 出発式！



秋の交通安全運動が9月21日から30日までの期間で行われました。

初日には高森警察署で功労者表彰および出発式が実施され、交通安全宣言を高森保育園の園児2名と096k熊本歌劇団のMANAKAさん、桃沢まちさんが行いました。引き続き、安全運転をよろしくお願いいたします。

有償インターンシップ 実施



高森高校2年生の5名が夏休み期間、高森町役場において有償によるインターンシップを実施しました。例年実施している3日間のインターンとは異なり、責任ある業務に携わることで、達成感や充実感を味わい、将来の進路選択の際に高森町で就職することを実感できる制度です。今回は、町長自ら生徒へ給与などを手渡し、生徒からは御礼の挨拶、町長から激励の言葉をおくられました。

ASO ROCK fest. FIRE 2023



高森高校×阿蘇ロックフェスのコラボレーション企画が実現！！マンガ学科の生徒が公式キャラクター「あそにゃん」の制作や、全アーティストのイラストを作成し、アーティスト登場時のアタック映像を担当しました。また、アソロックキッチンに「グリルド加藤」と共同開発した「高菜バーガー」を出店し、高森高校をPRしました。

そして、ステージでは草村町長が挨拶され、高森町や南阿蘇鉄道のPRなどで観客を盛り上げました。

人にやさしいまちの実現に向けて～互いの人権を尊重し、支え合うことから～ ～ハンセン病問題を正しく学び、偏見や差別をなくしましょう～



1 ハンセン病に対する誤解や偏見を生んだ背景

ハンセン病とは感染力が極めて弱い細菌による感染症です。また、感染力や症状の重さなど、総合的な観点から分類されている「感染症法」の対象疾患には含まれておらず、完治後に感染することも遺伝することはありません。（「人権研修テキスト（熊本県）」から）

にもかかわらず、今なお偏見や差別が根強く残っているのはなぜでしょうか？…その大きな要因は、明治政府以降行われてきた国による「ハンセン病患者を療養所に強制隔離する」等の施策にあったといわれています。90年間にも及ぶ誤った施策により、人々の心の中に（ハンセン病は恐ろしい）というイメージを植え付け、誤った見方・考え方を助長させていったのです。

2 ホテル宿泊拒否事件

ハンセン病に対する予断と偏見により引き起こされた出来事として、今からちょうど20年前の2003年（平成15年）11月、本県において発生した国立療養所菊池恵楓園の入所者に対するホテル宿泊拒否

事件があげられます。これは、熊本県が実施する「ふるさと訪問事業」において、ホテル側が「菊池恵楓園の入所者」という理由だけで宿泊を拒否した事件です。この時は、まったくの被害者である菊池恵楓園入所者自治会などに対し、この問題に無理解な人たちによる目を覆いたくなるような抗議や誹謗中傷の手紙、FAX、電話などが多数寄せられました。（「ハンセン病問題リーフレット（熊本県）」から）

3 ハンセン病を正しく理解するために

ハンセン病問題について私たちは、現在も故郷に帰れない回復者の方、また回復者の家族であることを明かせないご家族の方が多くおられるという現実、そしてその原因は理解のない周囲の人々による偏見と差別によるものであることを認識する必要があります。

私たちは、ハンセン病問題を他人事としてではなく、自分自身のこととして受け止めながら、正しい知識を学び、差別を許さない心情や態度を身に付けていくことが大切です。